TAIYO KOKI

第34期 Business Report

2018年1月1日～2018年12月31日

株式会社 太陽工機

証券コード：6164

企業理念

私たちは、
先進的技術を駆使した
製品を創造し、
精密加工を通して
世界の製造業の発展に
貢献する

経営方針

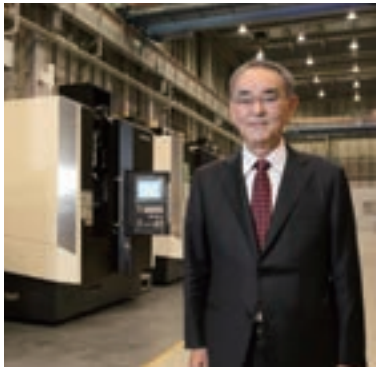
1 内外の法令を遵守し、
フェアな企業活動に徹する

2 イノベーションを追求し、
最先端の技術力と提案力で
社会に貢献する

3 企業価値を高め、
顧客、従業員、株主、
その他のステークホルダー
に報いる

株主の皆様へ To Our Shareholders

国内企業からの活発な設備投資需要の取り込みに成功し、受注額は2年連続で100億円を達成いたしました。



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2018年度は、引き続き国内外の主要展示会に出展するとともに技術提案型の営業活動を行うことで、新規ユーザー層の拡大と設備投資ニーズの掘り起こし受注の増加につなげてまいりました。

その結果、当社の業況は国内を中心に好調に推移し、受注額は2年連続で100億円を突破し、売上高も過去最高を達成いたしました。特に、産業機械関連企業や自動車関連企業から大口受注や複数台受注を多数獲得いたしました。また海外においても、欧州や米州、中国等の幅広い地域の現地ユーザーからの受注が順調に増加してきております。

当期の業績につきましては、受注高は12,740百万円(前期比18.6%増)となりました。売上高は、9,723百万円(前期比32.0%増)となりました。利益面では、営業利益1,669百万円(前期比72.7%増)、経常利益1,660百万円(前期比73.5%増)、当期純利益1,157百万円(前期比77.1%増)となりました。

当期の配当につきましては、中間配当40円、期末配当40円の年間配当80円を実施することとなりました。

2019年度につきましては、国内においては一部の業種からの需要に一服感が見られますが、産業機械関連企業や自動車関連企業、工作機械関連企業等の幅広い業種からの需要は堅調に推移すると見込んでおります。海外においても、米州や欧州からの需要が順調に増加してきており、今後も更なる需要の獲得に努めてまいります。

今後とも当社は、市場ニーズを捉えた製品の投入を軸に営業展開を図り、需要の発掘及び当社製品の普及拡大に注力してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年3月

代表取締役社長 渡辺　登

トップインタビュー　Top Interview

受注高は2年連続で100億円を突破し、売上・利益ともに過去最高を記録した太陽工機の2018年度。ここでは渡辺社長への取材を通じ、昨年1年間の経営ポイントやものづくりに対する考え方についてご説明します。

Q1 市場環境など昨年1年間の総括をお願いいたします。

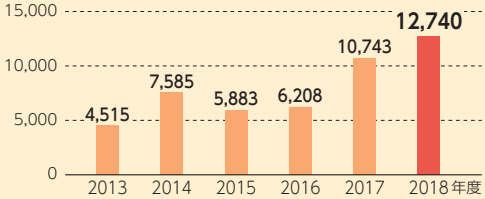
A 2018年度の工作機械受注実績（日本工作機械工業会発表）は、年の後半に米中貿易摩擦の影響を若干受けたものの、トータルでは前年比で10.3%増加し2年連続で過去最高となり、想定以上の活況を呈しました。

このような状況の下、期中に2回・年明けに1回、計3回にわたり業績予想の上方修正を行った通り、当社業況も国内を中心に好調に推移しました。そして受注額は2年連続で100億円の大台を突破し、売上高も過去最高の97億円を達成しました。利益面では増収効果に加えて、作業効率の改善や複数台ロット生産による生産

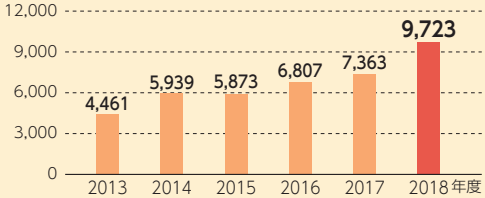
財務ハイライト

※2015年度は決算期変更のため2015年4月1日から同年12月31日までの9ヶ月決算となっております。

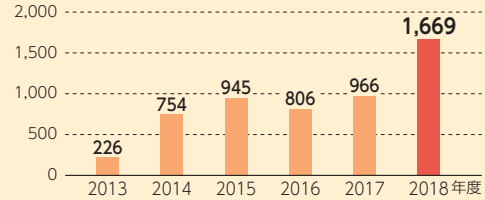
■受注高　（単位:百万円）



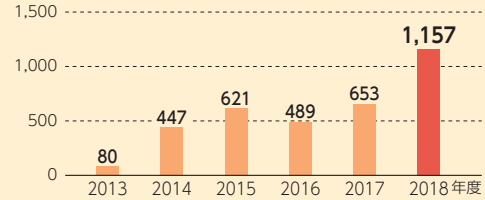
■売上高　（単位:百万円）



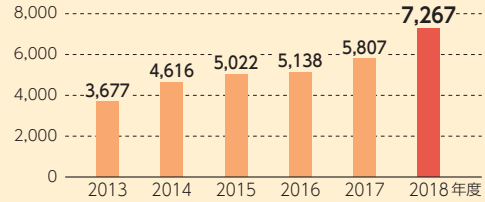
■営業利益　（単位:百万円）



■当期純利益　（単位:百万円）



■総資産　（単位:百万円）



（注）金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

効率アップにより製造コスト低減に奏功し、営業利益率は当初予想13.1%に対して17.2%と大幅に上昇しました。これらにより、営業利益/経常利益/当期純利益の各利益項目においても過去最高を達成することができました。

研削盤は、部品の最終工程を担う工作機械であり、工作機械全体の中で、研削盤市場はわずか1割弱のボリュームゾーンです。そのため非常にニッチな市場ではありますが、当社は他社にはない独自の開発力で「立形研削盤」を作り出し、これを武器に、これまで自らの力で独自のマーケットを築き上げてきました。その成果として現在では当社に対する信頼と認知をいただき、国内外の大手企業を中心に多くのお客様を確保するに至っています。またその証として当期においては特に、産業機械関連企業や自動車関連企業から、安定して大口受注や複数台受注を多数獲得できたことに強い手応えを感じています。

Q2 それでは製品展開や開発の状況についてはいかがでしたでしょうか?

A お客様から必要とされるメーカーとして生きていくためには、「従来の機械に満足して、守りに入るのではなく、常にチャレンジして攻めていくこと」、「常にお客様に接して、お客様の悩みを解決する製品開発を行い、提案していくこと」が重要だと当社は考えています。

このような考え方の下、製品展開においては、CVGシリーズやUSGシリーズを始めとする従来シリーズの拡張・ラインナップ強化を機動的に進めながら、次期(2019年12月期)へ向けた新機種の開発に粛々と着手してきました。

その成果として次期では、ねじ研削盤TGNシリーズでの新ラインナップ機種、そして当社にとって全くの新しい機種となる「軌道面研削盤」の投入を計画しています。直動ガイド案内面研削盤の提案をコンセプトに開発したこの「軌道面研削盤」は、①研削可能な長さの見直し、②送り軸の駆動方式変更、③多品種加工に対応、という3つの大きな特徴を有しています。当社にとってこれまでなかった最新鋭の技術を投入したハイスペックマシンであり、直動ガイド等の工作機械向けとして、より一層の市場深耕・顧客開拓を期待しています。

Q3 新工場建設予定地の取得を発表されました、その経緯等について教えてください。

A 当期において当社では、従来ストックヤードにしていたところも生産ラインとして新たに活用したことにより、現状の生産能力は月平均売上金額で約9億円(台数約25台)を見込める体制となっています。また当期末時点での受注残高は約93億円(前期比約30億円増)となっています。

以上のような現在の生産状況に加え、今後の需要動

向として、ロボット関係や半導体関係からの需要に一服感が見られるものの、引き続きその他の産業機械関連や自動車関連、工作機械関連企業向けからは活発な設備投資需要が見込まれることから、次の成長ステップとしてこのたび当社では、現本社工場の約5倍の面積を誇る新工場用地を確保する運びとなりました。

新工場用地は現本社工場から車で約10分の場所に位置します。2020年の第1期土地取得後、新工場建設へ向けた具体的アクションに着手する計画であります。また長岡地域は機械産業が盛んな地域であり、技術力の高い地元企業も多いので、これまでと同様に地元の協力企業には機械の部品加工等の面で応援・協力をいただきながら、リードタイムの短縮と生産能力の増強を図り、製品を安定的に供給できる体制を確立していく方針です。

Q4 今後の経営ビジョンなど、株主の皆様へのメッセージをお願いします。

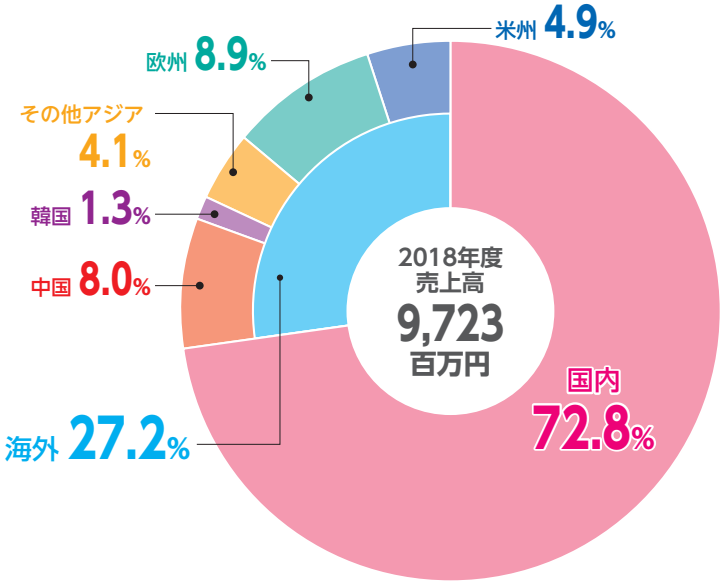
A 工作機械の中で当社の研削盤が位置する領域は、マーケットのボリューム自体では決して大きくはありませんが、ニッチな世界で高精度な技術力が常に要求されます。そして時代が変化すればする程にその要求レベルは高まり、ボリュームも広がってくる世界とも言えます。既に現在では、「当社研削盤でなければ作ることのできない部品」も多数生まれています。当社はこれからも常にお客様の近くで、お客様が悩まれていること、お客様の欲するもの、苦労されていることに対してそれに応える提案、すなわち製品開発を進めることを原点として、日本を始めとする世界の製造業に必要とされる研削盤メーカーとして成長し続けてまいります。

なお最後になりましたが、このたびの期末配当は現状の業績を踏まえ1株当たり40円とさせていただきました。これにより当期の1株当たり年間配当金は、既に実施した中間配当金40円と合わせて80円となります（前期比10円増）。

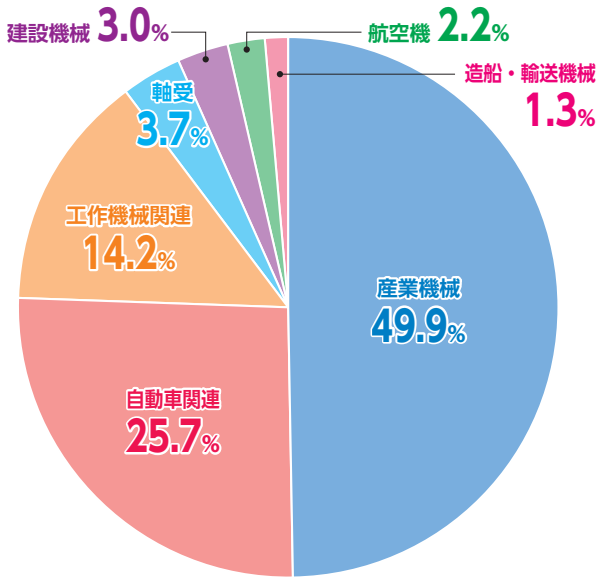
株主の皆様におかれましては、当社の更なる成長にご期待いただき、今後とも末長くご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国内の産業機械関連企業や自動車関連企業から大口受注や複数台

地域別売上構成比



業種別売上構成比



国内

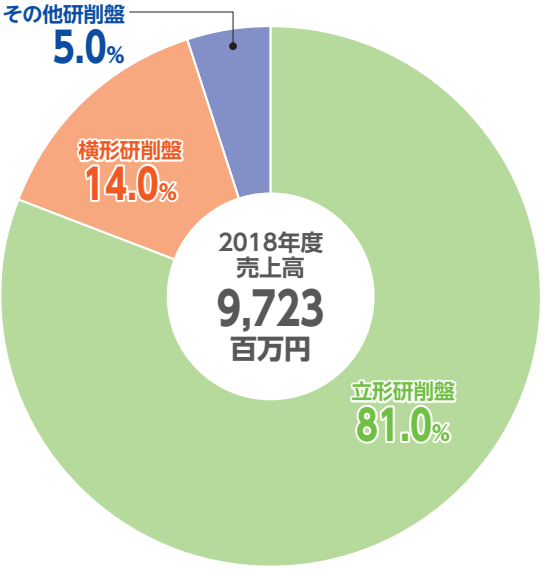
産業機械関連企業や自動車関連企業からの受注が好調に推移いたしました。特に産業機械関連企業や自動車関連企業からの大口受注や複数台受注、工作機械関連企業からの受注が売上増加に寄与いたしました。今後もリピートユーザーの設備投資需要を掘り起こすとともに、新規ユーザーの開拓に尽力してまいります。

海外

欧州や米州、中国等の現地ユーザーからの受注が順調に増加いたしました。また国内の自動車関連企業からの中国や米州向けの複数台受注が売上に大きく貢献いたしました。今後も、海外現地スタッフ及び駐在スタッフを中心に、海外営業活動の強化を図るとともに、現地展示会に出展することでユーザー層の拡大に努めてまいります。

受注を獲得し、受注額・売上高ともに過去最高を更新いたしました。

品目別売上構成比

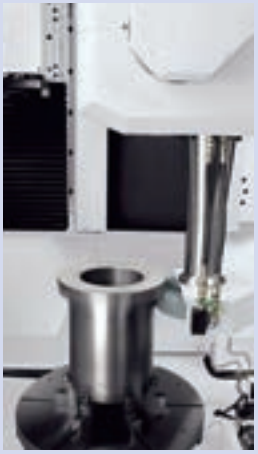


中・大型機を中心に幅広い種類の立形研削盤の受注が売上に貢献いたしました。

立形研削盤では、産業機械関連企業からは中・大型機で高生産型のCVGシリーズや標準機のNVGⅡシリーズ、ハイスペックマシンであるNVGHシリーズ、汎用機のVertical Mate®シリーズ等幅広い機種の受注を多数獲得し、売上増加に貢献いたしました。工作機械関連企業からは汎用研削盤であるVertical Mate®シリーズ、自動車関連企業からは小型機のIGVシリーズの受注を多数いただきました。

横形研削盤では、自動車関連企業からCGNシリーズのリピート大口受注を獲得し売上に寄与いたしました。

今後も製品ラインナップを拡充するとともに、国内外の販路拡大に努めてまいります。



立形研削盤とは

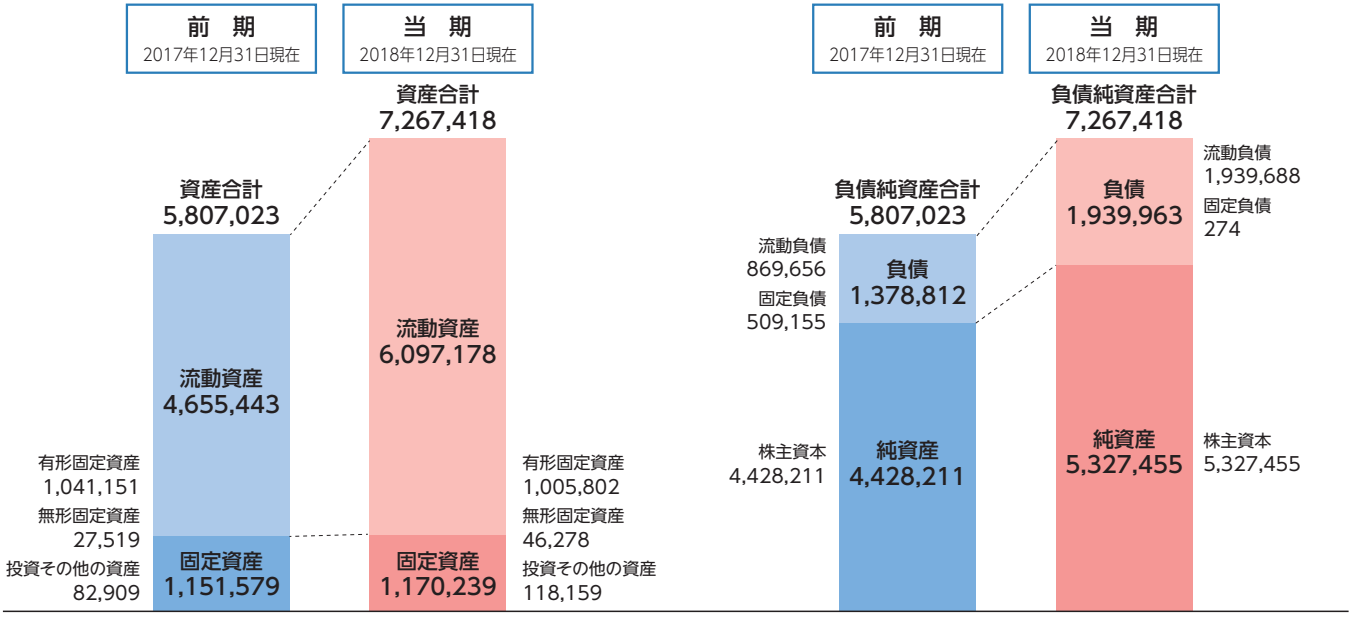
立形研削盤は、部品を重力に対して垂直方向に回転させて加工する方式の工作機械です。当社がもつ独自技術により1989年に業界で初めて開発・製品化し、現在は主力製品として国内でトップシェアを占めています。加工する部品を垂直に設置するため、段取りが容易であるばかりか重力の影響を受けず加工精度に優れた特性をもち、工場内の省スペース化にも貢献します。

当社の研削盤が加工した製品は、こんなところで使われています。

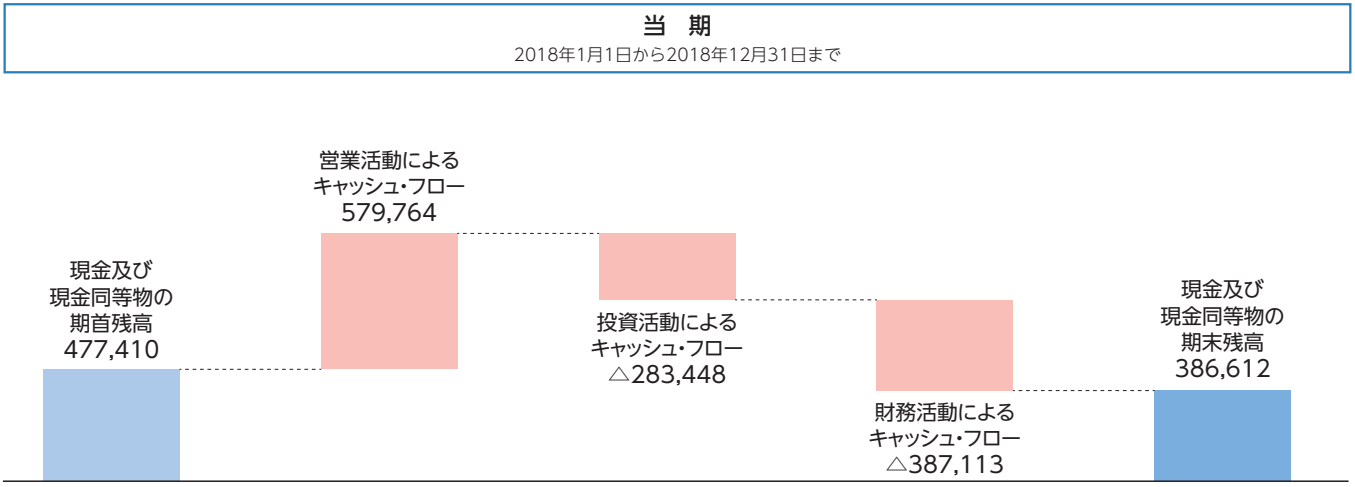
当社の研削盤は、自動車や航空機、建設機械におけるエンジン部品やシャフト、ベアリング、風力発電設備の変速機といった重要部品の加工に利用されています。0.001mm単位で要求される精度に応えて、低燃費の実現や振動の抑制などによる乗り心地、安全性、長寿命等品質の向上に重要な役割を果たしています。

財務諸表

貸借対照表の概要 (単位:千円)

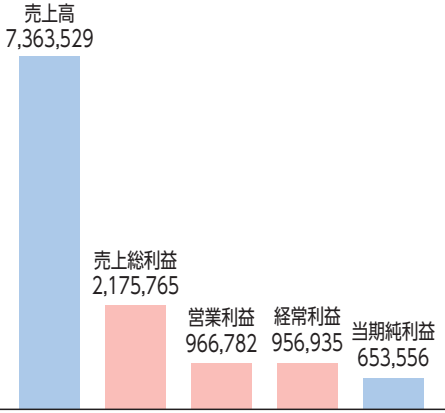


キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:千円)

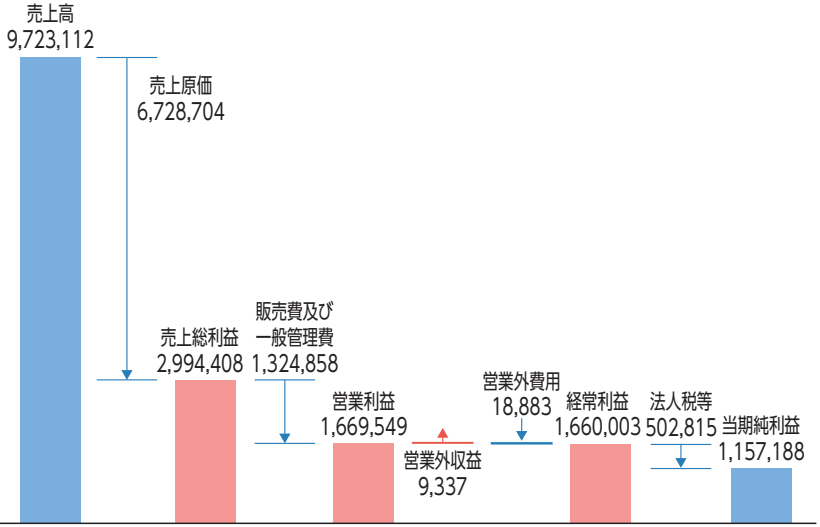


損益計算書の概要 (単位:千円)

前　期
2017年1月1日から2017年12月31日まで



当　期
2018年1月1日から2018年12月31日まで



株主資本等変動計算書 (単位:千円)

当　期 2018年 1 月 1 日から 2018年12月31日まで	株主資本								純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	**700,328**	**387,828**	**85,132**	**472,960**	**3,288,871**	**3,288,871**	**△33,949**	**4,428,211**	**4,428,211**
当期変動額									
剰余金の配当					△324,234	△324,234		△324,234	△324,234
自己株式の取得							△143	△143	△143
自己株式の処分			44,468	44,468			21,964	66,433	66,433
当期純利益					1,157,188	1,157,188		1,157,188	1,157,188
当期変動額合計	**—**	**—**	**44,468**	**44,468**	**832,954**	**832,954**	**21,821**	**899,244**	**899,244**
当期末残高	**700,328**	**387,828**	**129,601**	**517,429**	**4,121,825**	**4,121,825**	**△12,128**	**5,327,455**	**5,327,455**

(注)金額は表示単位未満を切り捨てて表示しております。

新潟県長岡市内に工場用地を取得

当社は、2005年に新潟県長岡市の南部工業団地から現本社工場のある雲出工業団地に全面移転して13年が経過しましたが、更なる生産能力の増強を目的として長岡市西部丘陵東地区に土地を取得することを決定いたしました。

2018年7月5日には長岡市と土地取得に関する進出協定を締結し、土地取得に向けてのプロジェクトが本格的に始動いたしました。取得する土地の面積は約10.5haであり、現在の本社工場面積の約5倍となっております。

今後は、この土地を利用して更なる生産能力の拡大を図り、お客様に高精度・高品質な研削盤を安定的に提供できる体制を確立してまいります。そして長岡から世界へ、ものづくりを通して世の中の発展に貢献してまいります。

更なる販路拡大へ～各国の主要展示会に出展～

IMTS2018

2018年9月10日～15日の6日間、アメリカのシカゴにてIMTS2018が開催され、汎用立形複合研削盤「Vertical Mate®85」を出展いたしました。

AMB2018

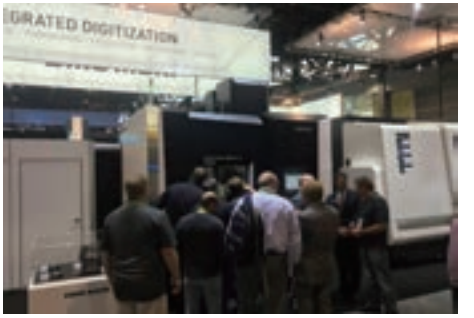
2018年9月18日～22日の5日間、ドイツのシュツットガルトにてAMB2018が開催され、立形複合研削盤「CVG-9」を出展いたしました。

2018年度は海外ではドイツやアメリカの展示会に出展し、各国のお客様に当社製品の技術力をアピールしてまいりました。両展示会ともに会期中に受注を獲得するとともに、多くの引合をいただくことができました。

JIMTOF2018

2018年11月1日～6日の6日間、東京ビッグサイトにて国内最大規模の展示会であるJIMTOF2018が開催されました。当社は立形複合研削盤「CVG-9」や高生産型の立形複合研削盤「PGV-3」、超小型立形研削盤「USG-2」を始めとした全5機種を出展いたしました。お客様からは当社製品の研削技術に対して高い評価をいただくことができ、目標を上回る多数の受注を獲得いたしました。

当社は今後とも国内のみならず海外での展示会の出展数を増やし、当社製品の更なる拡販を推し進めてまいります。



会社の概要 [2018年12月31日現在]

Corporate Data

会社名	株式会社太陽工機 (TAIYO KOKI CO., LTD.)
資本金	700,328,200円
設立	1986年3月14日
主な事業内容	工作機械(各種研削盤)の開発・製造及び販売
従業員	217名
ホームページ	http://www.taiyokoki.com
本社所在地	新潟県長岡市西陵町221番35
関連会社	DMG森精機株式会社

役員
(2019年3月27日現在)

代表取締役社長	渡辺 登
専務取締役	棚橋 基裕
常務取締役	小林 秋男
常務取締役	渡辺 剛
取締役	髙村 寛義
取締役	加藤 祐司
取締役	森 雅彦
取締役	間瀬 宏
取締役	柿沼 康弘
常勤監査役	大野 和彦
監査役	大野 義彰
監査役	佐藤 壽雄

株式の状況 [2018年12月31日現在]

Stock Data

※2019年1月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っておりますが、株式の状況につきましては、2018年12月31日現在の状況を記載しております。

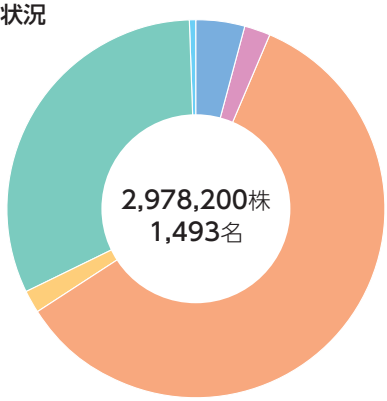
発行可能株式総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,978,200株
株主数	1,493名

大株主

大株主(自己株式は除く)	持株数(株)	持株比率(%)
DMG森精機株式会社	1,494,000	50.40
株式会社渡辺	152,000	5.12
渡辺　登	152,000	5.12
株式会社井高	108,000	3.64
太陽工機従業員持株会	81,800	2.75
株式会社SBI証券	43,900	1.48
神林　忠弘	41,500	1.40
株式会社第四銀行	40,000	1.34
株式会社三井住友銀行	40,000	1.34
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	36,200	1.22

(注)持株比率は、発行済株式の総数から自己株式(14,169株)を除いて計算しております。

所有者別分布状況



金融機関	130,400株	4.4%
証券会社	58,847株	2.0%
その他国内法人	1,778,702株	59.7%
外国法人等	50,000株	1.7%
個人・その他	946,082株	31.7%
自己株式	14,169株	0.5%

株主メモ

事業年度	1月1日~12月31日
期末配当金受領株主確定日	12月31日
中間配当金受領株主確定日	6月30日
定時株主総会	毎年3月
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 TEL 0120-782-031（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.taiyokoki.com （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。）

ホームページのご紹介

http://www.taiyokoki.com

当社ではホームページにて当社の企業情報を随時開示しています。製品紹介、各種リンク、サポート情報等を掲載しているほか、IR情報のサイトでは決算短信等がご覧いただけます。

ネットワーク

<国内拠点>

本社・工場
〒940-2045 新潟県長岡市西陵町221-35
TEL. 0258-42-8808（代）　FAX. 0258-42-8810

東部営業所
〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-340 ウノビル7階
TEL. 048-658-8701　FAX. 048-658-8702

中部営業所
〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅2-35-16
(DMG森精機株式会社内)
TEL. 052-563-1270　FAX. 052-563-1310

西部営業所
〒564-0052 大阪府吹田市広芝町4-1 江坂・美貴ビル8階
TEL. 06-6378-7166　FAX. 06-6378-7167

<海外拠点>

中国（北京）
Room 1605, Tower B, Global Trade Center, No.36 North Third Ring Road East, Dongcheng District, Beijing 100013, China
TEL. +86-10-5825-6006

中国（上海）
No.178 West Yindu Road, Songjiang District, Shanghai 201612, China
TEL. +86-21-6764-8876

アメリカ（シカゴ）
2400 Huntington Boulevard Hoffman Estates, Illinois 60192
TEL. +1-847-593-5400

ヨーロッパ
Antoniusstrasse 14 73249 Wernau Germany
TEL. +49-7153-93-4150

タイ（アマタナコン）
700/146 Moo 1, Tambol Bankao, Amphur Panthong, Chonburi 20160, Thailand
TEL. +66-38-468720-1

UD FONT 見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 www.fsc.org FSC® C022915
VEGETABLE OIL INK